

厚生労働科学研究費補助金  
がん対策推進総合研究事業

3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」  
に関する教育と正しい情報伝達に関する研究

令和2年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 田村 研治

令和3年（2021年）5月

## 目 次

### I. 総括研究報告

田村研治 3-9

### II. 分担研究報告 10

1. 土原一哉 11

2. 高橋俊二 12-13

3. 古川洋一 14

4. 川上尚人 15

5. 佐治重衡 16-17

6. 矢野聖二 18

7. 植竹宏之 19

8. 林田哲 20

9. 吉原弘祐 21

10. 清水千佳子 22

11. 加藤雅志 23-24

### III. 研究成果の刊行に関する一覧表 25-29

# I . 総括研究報告書

3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」  
に関する教育と正しい情報伝達に関する研究に関する研究

研究代表者 田村研治  
島根大学医学部附属病院 先端がん治療センター 教授

研究要旨

患者、患者家族、一般市民を対象に、現状のがんゲノム医療の全体像をまとめアップデートを随時行いながら、ゲノム関連情報の提供を行うことを計画する。各学会に所属する専門家による現状の解説や将来像、現時点では達成できていないことなど負の側面も含めて正確な情報を提供する。情報ツールとしては、医学系出版社の書籍、3学会（日本臨床腫瘍学会、日本癌学会、日本癌治療学会）のホームページなどを用いる。又、各学会の学術集会、市民公開講座、国立がん研究センター、患者会、他医療従事者向け教育事業などと連携する。

3年間の研究期間内に、国民を対象とした「がんゲノムネット」のコンテンツ・体制を整えることを目標とする。

A. 研究目的

近年、個人のゲノム情報に基づき、個人ごとの違いを考慮した「がんゲノム医療」への期待が高まっている。第3期がん対策推進基本計画では、「バイオバンク」、「次世代シーケンスを用いたゲノム解析」、「治験薬を含めた治療選択肢を提示できるゲノムコンソーシアム」などを推進する一方、「がんゲノム医療」に関する国民への理解を促進するための教育や普及啓発が求められている。

現状、「がんゲノム医療」には、患者を中心とした社会一般から多大な期待がなされているが、正確な情報提供が欠如しているため、一般人はもちろん医療従事者の間でも混乱が生じている。商業ベースで宣伝される遺伝子パネルなどの中には低品質のものが散見され、結果が治療選択に反映されないものも多くある。情報は専門用語で示されるため、一般の国民には理解が困難であること、又、テレビ、新聞、SNSを含む膨大な情報や広告の中で、信頼性の高い情報を選別することは困難で、結果としてがん患者が不利益を得ることも少なくない。

「日本癌学会」、「日本臨床腫瘍学会」、「日本癌治療学会」は、2017年より「がんゲノム医療の推進」を目的として、「3学会合同ゲノム医療推進タスクフォース」（座長：日本癌治療学会理事長；北川 雄光）を設立した。活動目標の1つの「社会に対する正しいがんゲノム医療の提供」の実現のために「がんゲノムネット・ワーキンググループ(WG)」を組織した。3学会よりそれぞれ推薦を受けた10名で構成し、2017年10月20日に第1回のWG会議を開催し、現在活動を継続している。

本研究は、この3学会合同WGを基盤とし、患

者、患者家族、一般市民を対象に、現状のがんゲノム医療の全体像をまとめアップデートを随時行いながら、ゲノム関連情報の提供を行うことを計画する。各学会に所属する専門家による現状の解説や将来像、現時点では達成できていないことなど負の側面も含めて正確な情報を提供する。情報ツールとしては、3学会のホームページだけではなく、患者会のホームページ、NPOがん関連ネットワーク、メディア企業、医学系出版社、大手のインターネットサイトを用いる。又、各学会の学術集会、市民公開講座、大学のがんプロフェッショナル講座、国立がん研究センター、患者会、他医療従事者向け教育事業などと連携する。

3年間の研究期間内に、国民を対象とした「がんゲノムネット」のコンテンツ・体制を整えることを目標とする。

患者、患者家族、一般市民に「がんゲノム医療」に関する正しい知識が普及する。次世代シーケンスを用いた遺伝子パネルなどの保険償還や、ゲノム中核病院の指定などが検討される中、適応、関連施設、アクセス、金額などの情報を得ることができる。SNSなどを用いた情報伝達方法が確立され、広く認知されれば、継続的に新しい情報をアップデートすることが可能となり、費用対効果が高まる。日本癌学会、日本臨床腫瘍学会、日本癌治療学会を基盤としているため、がんの最新情報を集めやすく、基礎から臨床にわたる専門家の人的リソースが豊富であり、ガイドラインや、地域情報、会員情報を用いることが可能となる。

「ゲノム治療」と称する誤った情報、エビデンスのない高額な検査法や民間医療が増えてきている。これらの負の情報も適切に公開することによ

り、がん患者が正しく医療情報・資源にアクセスが可能となり、がん患者の不利益を減少させる。

医療関係者などに対するゲノム講習は、公的研究費を基盤にしたものが複数あるが、「社会に対するがんゲノム医療情報の提供」事業はほとんどない。医学専門用語を避け、コミュニケーション論専門家やその研究班からのアドバイスをふまえ、わかりやすい情報提供に努める。

本研究班がもたらす成果は、「第3期がん対策推進基本計画」で示される、「がんゲノム医療」に関する国民への理解を促進するための教育や普及啓発に直結する。

## B. 研究方法

インターネットなどを用いた情報配信事業については、情報ツール、コンテンツ及び運営方針を決定し、分担執筆者を選定する。出版事業に関しては、書籍名、内容、項目を決定し、出版社、分担執筆者を選定する。市民向けのがenom講習会や3学会の学術集会内でのシンポジウム、教育セミナー、市民公開講座にて正しいゲノム情報の開示を行う。事業全般において、分担研究者（清水）とその研究班などから、がん患者、患者家族に対するコミュニケーション方法について情報収集し、情報発信に役立てる。

### 1. 会議

・がんゲノムネット・ワーキンググループ（田村、土原、高橋、古川、川上、佐治、矢野、植竹、林田、吉原、清水）を開催する。

・3学会合同ゲノム推進タスクフォース（田村、秋田、石岡、西尾、北川、青木、武藤、森、林田、油谷、河野、間野、野田）を開催する。

### 2. 各情報配信業者との打ち合わせ。

1) インターネットなどを用いた情報配信事業

NPO 法人がんネットジャパンとインターネットコンテンツについて打ち合わせを行う。

2) 出版社の選定

医科学出版社と書籍の発刊にむけて打ち合わせを行う。

## C. 研究結果

3学会合同ゲノム推進タスクフォース

座長 田村研治

日本臨床腫瘍学会 秋田弘俊 石岡千加史

田村研治 西尾 和人

日本癌治療学会 北川雄光 青木大輔

武藤学 森 正樹 林田 哲

日本癌学会 油谷浩幸 河野隆志

間野博行 野田哲生

・2019年11月26日18:00～20:00に第8回3学会

合同ゲノム医療推進タスクフォース会議を開催した。

・2020年1月5日(木)18:00～20:00に第9回3学会合同ゲノム医療推進タスクフォース会議を開催した。

書籍「よくわかるがんゲノム医療」の出版と、SNSコンテンツ「がんゲノムネット」の開設に向けて、内容の最終調整と、3学会の了承を得た。

1) 書籍を用いた情報配信事業

書籍名：「よくわかるゲノム医療」

出版社：医科学出版社

・令和2年5月、がん患者による内容の校閲をふまえ、各執筆者に原稿修正依頼を行った。

・令和2年8月、全ての原稿を回収した。

・令和2年12月25日発刊となった。10,000部発刊する。

2) SNSを用いた情報配信事業

・令和2年11月、動画サイトの撮影を開始した

・令和3年2月、3学会合同「がんゲノムネット」特設ウェブサイトを開設し、3学会（日本臨床腫瘍学会、日本癌学会、日本癌治療学会）のホームページに掲載した。

3) 患者、家族、市民を対象とした情報伝達

・令和2年10月3日(土)、第36回日本癌学会市民公開講座で、「よくわかるゲノム医療」と「がんゲノムネット」について講演した。

## D. 考察

令和2年1月から、新型コロナウイルスの影響で研究計画が遅れたが、令和2年度に、出版物「よくわかるがんゲノム医療」の刊行とインターネットコンテンツ「がんゲノムネット」をオープンすることができた。

書籍「よくわかるゲノム医療」については、国内すべての、ゲノム中核病院、ゲノム拠点病院、ゲノム連携病院に配布した。又、国立がん研究センター中央病院、がん対策情報部、複数の患者会、学会の患者会のイベント、がんネットジャパンなど、各方面に配布した。

「がんゲノムネット」については、今後、新しい情報を随時アップデートしていく。

令和2年に関しては、コロナ禍のため、対面の会議、委員会の開催が困難であったが、WEB会議を用いた。

## E. 結論

3年間の研究期間内に、国民を対象とした「がんゲノムネット」のコンテンツ・体制を整えることを達成できた。

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

1. Tamura K, Imamura CK, Takano T, Saji S, Yamanaka T, Yonemori K, Takahashi M, Tsurutani J, Nishimura R, Sato K, Kitani A, Ueno NT, Mushiroda T, Kubo M, Fujiwara Y, Tanigawara Y: *CYP2D6* Genotype-Guided Tamoxifen Dosing in Hormone Receptor-Positive Metastatic Breast Cancer (TARGET-1): A Randomized, Open-Label, Phase II Study. *J Clin Oncol.* 38: 558-566, 2020
2. Modi S, Saura C, Yamashita T, Park YH, Kim S-B, Tamura K, Andre F, Iwata H, Ito Y, Tsurutani J, Sohn J, Denduluri N, Perrin C, Aogi K, Tokunaga E, Im S-A, Lee KS, Hurvitz SA, Cortes J, Lee C, Chen S, Zhang L, Shahidi J, Yver A, Krop I, DESTINY-Breast01 Investigators: Trastuzumab Deruxtecan in Previously Treated HER2-Positive Breast Cancer. *N Engl J Med.* 382: 610-621, 2020
3. Ebata T, Yonemori K, Nishikawa T, Sudo K, Shimomura A, Noguchi E, Fujiwara Y, Kato T, Hasegawa K, Fujiwara K, Tamura K.; Treatment Outcome of Second-Line Chemotherapy for Gynecologic Carcinosarcoma. *Oncology.* 98: 699-705., 2020
4. Noda-Narita S, Shimomura A, Tanabe Y, Kawachi J, Matsuzaki J, Takizawa S, Aoki Y, Shimizu C, Tamura K, Ochiya T: Peripheral Neuropathy From Paclitaxel: Risk Prediction by Serum microRNAs. *BMJ Support Palliat Care.* doi: 10.1136/bmjspcare-2019-001900, 2020
5. Uehara T, Yoshida H, Fukuhara M, Yoshida M, Motoi N, Sugawara S, Sone M, Arai Y, Tamura K, Uno M, Ishikawa M, Kato T. Efficacy of ascitic fluid cell block for diagnosing primary ovarian, peritoneal, and tubal cancer in patients with peritoneal carcinomatosis with ascites. *Gynecol Oncol.* 157: 398-404, 2020.
6. Modi S, Park H, Murthy RK, Iwata H, Tamura K, Tsurutani J, Moreno-Aspitia A, Doi T, Sagara Y, Redfern C, Krop IE, Lee C, Fujisaki Y, Sugihara M, Zhang L, Shahidi J, Takahashi S; Antitumor Activity and Safety of Trastuzumab Deruxtecan in Patients With HER2-Low-Expressing Advanced Breast Cancer: Results From a Phase Ib Study. *J Clin Oncol.* 38: 1887-1896, 2020
7. Iwata H, Inoue K, Kaneko K, Ito Y, Tsugawa K, Hasegawa A, Nakagawa S, Kuratomi H, Tamura K; Corrigendum to: Subgroup analysis of Japanese patients in a Phase 3 study of atezolizumab in advanced triple-negative breast cancer (IMpassion130). *Jpn J Clin Oncol.* 50(2):223. doi: 10.1093/jjco/hyz208, 2020
8. Yoshida A, Arai Y, Hama N, Chikuta H, Bando Y, Nakano S, Kobayashi E, Shibahara J, Fukuhara H, Komiyama M, Watanabe SI, Tamura K, Kawai A, Shibata T: Expanding the clinicopathologic and molecular spectrum of BCOR-associated sarcomas in adults. *Histopathology.* 76: 509-520, 2020.
9. Kato MK, Yunokawa M, Bun S, Shimoi T, Yonemori K, Miyasaka N, Kato T, Tamura K: Treatment strategies for recurrent ovarian cancer in older adult patients in Japan: a study based on real-world data. *J Cancer Res Clin Oncol.* 146: 1335-1341, 2020.
10. Seo T, Noguchi E, Yoshida M, Mori T, Tanioka M, Sudo K, Shimomura A, Yonemori K, Fujiwara Y, Tamura K: Response to Dabrafenib and Trametinib of a Patient with Metaplastic Breast Carcinoma Harboring a BRAF V600E Mutation. *Case Rep Oncol Med.* 2020 Mar 6;2020:2518383. doi: 10.1155/2020/2518383. eCollection, 2020.
11. Matsumoto K, Takahashi M, Sato K, Osaki A, Takano T, Naito Y, Matsuura K, Aogi K, Fujiwara K, Tamura K, Baba M, Tokunaga S, Hirano G, Imoto S, Miyazaki C, Yanagihara K, Imamura CK, Chiba Y, Saeki T: A double-blind, randomized, multicenter phase 3 study of palonosetron vs granisetron combined with dexamethasone and fosaprepitant to prevent chemotherapy-induced nausea and vomiting in patients with breast cancer receiving anthracycline and cyclophosphamide. *Cancer Med.* 9: 3319-3327, 2020.

12. Tsurutani J, Iwata H, Krop I, Jänne PA, Doi T, Takahashi S, Park H, Redfern C, Tamura K, Wise-Draper TM, Saito K, Sugihara M, Singh J, Jikoh T, Gallant G, Li BT: Targeting HER2 with Trastuzumab Deruxtecan: A Dose-Expansion, Phase I Study in Multiple Advanced Solid Tumors. *Cancer Discov.* 10: 688-701, 2020.
13. Watanabe S, Shimomura A, Kubo T, Sekimizu M, Seo T, Watanabe SI, Kawai A, Yamamoto N, Tamura K, Kohno T, Ichikawa H, Yoshida A: BRAF V600E mutation is a potential therapeutic target for a small subset of synovial sarcoma. *Mod Pathol.* 33: 1660-1668, 2020
14. Sugano T, Yoshida M, Masuda M, Ono M, Tamura K, Kinoshita T, Tsuda H, Honda K, Gemma A, Yamada T. Prognostic impact of ACTN4 gene copy number alteration in hormone receptor-positive, HER2-negative, node-negative invasive breast carcinoma. *Br J Cancer.* 122: 1811-1817, 2020
15. Tanabe Y, Shiraishi S, Hashimoto K, Ikeda K, Nishizawa D, Hasegawa J, Shimomura A, Ozaki Y, Tamura N, Yunokawa M, Yonemori K, Takano T, Kawabata H, Tamura K, Fujiwara Y, Shimizu C: Taxane-induced sensory peripheral neuropathy is associated with an SCN9A single nucleotide polymorphism in Japanese patients. *BMC Cancer.* 20(1): 325. doi: 10.1186/s12885-020-06834-0., 2020
16. Smyth LM, Tamura K, Oliveira M, Ciruelos EM, Mayer IA, Sablin MP, Biganzoli L, Ambrose HJ, Ashton J, Barnicle A, Cashell DD, Corcoran C, de Bruin EC, Foxley A, Hauser J, Lindemann JPO, Maudsley R, McEwen R, Moschetta M, Pass M, Rowlands V, Schiavon G, Banerji U, Scaltriti M, Taylor BS, Chandarlapaty S, Baselga J, Hyman DM. Capivasertib, an AKT Kinase Inhibitor, as Monotherapy or in Combination with Fulvestrant in Patients with *AKT1*<sup>E17K</sup>-Mutant, ER-Positive Metastatic Breast Cancer. *Clin Cancer Res.* 26: 3947-3957, 2020
17. Kawachi A, Yamashita S, Okochi-Takada E, Hirakawa A, Tsuda H, Shimomura A, Kojima Y, Yonemori K, Fujiwara Y, Kinoshita T, Ushijima T, Tamura K: BRCA1 promoter methylation in breast cancer patients is associated with response to olaparib/eribulin combination therapy. *Breast Cancer Res Treat.* 181: 323-329, 2020
18. Mehnert JM, Bergsland E, O'Neil BH, Santoro A, Schellens JHM, Cohen RB, Doi T, Ott PA, Pishvaian MJ, Puzanov I, Aung KL, Hsu C, Le Tourneau C, Hollebecque A, Élez E, Tamura K, Gould M, Yang P, Stein K, Piha-Paul SA: Pembrolizumab for the treatment of programmed death-ligand 1-positive advanced carcinoid or pancreatic neuroendocrine tumors: Results from the KEYNOTE-028 study. *Cancer.* 126: 3021-3030, 2020
19. Sanchez Calle A, Yamamoto T, Kawamura Y, Hironaka-Mitsunashi A, Ono M, Tsuda H, Shimomura A, Tamura K, Takeshita F, Ochiya T, Yamamoto Y: Long non-coding NR2F1-AS1 is associated with tumor recurrence in estrogen receptor-positive breast cancers. *Mol Oncol.* 14:2271-2287, 2020.
20. Mizuno T, Kojima Y, Yonemori K, Yoshida H, Sugiura Y, Ohtake Y, Okuma HS, Nishikawa T, Tanioka M, Sudo K, Shimomura A, Noguchi E, Kato T, Shimoi T, Uno M, Ishikawa M, Fujiwara Y, Ohe Y, Tamura K: HER3 protein expression as a risk factor for post-operative recurrence in patients with early-stage adenocarcinoma and adenosquamous carcinoma of the cervix *Oncol Lett.* 20(4):38. doi: 10.3892/ol.2020.11899. Epub, 2020
21. Hayashi N, Kumamaru H, Isozumi U, Aogi K, Asaga S, Iijima K, Kadoya T, Kojima Y, Kubo M, Miyashita M, Miyata H, Nagahashi M, Niikura N, Ogo E, Tamura K, Tanakura K, Yamamoto Y, Yoshida M, Imoto S, Jinno H: Annual report of the Japanese Breast Cancer Registry for 2017 Breast Cancer. *2020* 27: 803-809.
22. Minami H, Ando Y, Tamura K, Tajima T, Isaacs R: Phase I Study of LFA102 in Patients With Advanced Breast Cancer or Castration-resistant Prostate Cancer *Anticancer Res.* 40: 5229-5235, 2020

23. Watanuki R, Shimomura A, Yazaki S, Noda-Narita S, Sumiyoshi-Okuma H, Nishikawa T, Tanioka M, Sudo K, Shimoi T, Noguchi E, Yonemori K, Tamura K: Survival outcomes in patients with human epidermal growth factor receptor 2 positive metastatic breast cancer administered a therapy following trastuzumab emtansine treatment. *Medicine (Baltimore)*. 18;99(38):e22331. doi: 10.1097/MD.00000000000022331, 2020
24. Ryu S, Ohuchi M, Yagishita S, Shimoi T, Yonemori K, Tamura K, Fujiwara Y, Hamada A: Visualization of the distribution of nanoparticle-formulated AZD2811 in mouse tumor model using matrix-assisted laser desorption ionization mass spectrometry imaging. *Sci Rep*. 23;10(1):15535. doi: 10.1038/s41598-020-72665-5, 2020
25. Mizuno T, Kojima Y, Yonemori K, Yoshida H, Sugiura Y, Ohtake Y, Okuma HS, Nishikawa T, Tanioka M, Sudo K, Shimomura A, Noguchi E, Kato T, Shimoi T, Uno M, Ishikawa M, Fujiwara Y, Ohe Y, Tamura K: Neoadjuvant chemotherapy promotes the expression of HER3 in patients with ovarian cancer. *Oncol Lett*. 20(6):336. doi: 10.3892/ol.2020.12200. Epub, 2020
26. Kondo S, Shimizu T, Koyama T, Sato J, Iwasa S, Yonemori K, Fujiwara Y, Shimomura A, Kitano S, Tamura K, Yamamoto N.: First-in-human study of the cancer peptide vaccine TAS0313 in patients with advanced solid tumors. *Cancer Sci*. Dec 7. doi: 10.1111/cas.14765. Online ahead of print, 2020
27. Hata T, Nakamura K, Yonemori K, Noguchi E, Watanabe M, Sohn J, Lu YS, Yap YS, Tamura K, Fujiwara Y: Regulatory and Operational Challenges in Conducting Asian International Academic Trial for Expanding the Indications of Cancer Drugs. *Clin Transl Sci*. doi: 10.1111/cts.12965. Online ahead of print, 2020
28. Yamamoto N, Shimizu T, Yonemori K, Kitano S, Kondo S, Iwasa S, Koyama T, Sudo K, Sato J, Tamura K, Tomomatsu J, Ono M, Fukuda N, Takahashi S. A first-in-human, phase 1 study of the NEDD8 activating enzyme E1 inhibitor TAS4464 in patients with advanced solid tumors. *Invest New Drugs*. Feb 9. doi: 10.1007/s10637-020-01055-5. Online ahead of print, 2021
29. Yonemori K, Shimizu T, Kondo S, Iwasa S, Koyama T, Kitano S, Sato J, Shimomura A, Shibaki R, Suri A, Kase Y, Sumino S, Tamura K, Yamamoto N. The safety, tolerability and pharmacokinetics of niraparib in Japanese patients with solid tumours: results of a phase I dose-escalation study. *Jpn J Clin Oncol*. Feb 24:hyab013. doi: 10.1093/jjco/hyab013. Online ahead of print, 2021
30. Winer EP, Lipatov O, Im SA, Goncalves A, Muñoz-Couselo E, Lee KS, Schmid P, Tamura K, Testa L, Witzel I, Ohtani S, Turner N, Zambelli S, Harbeck N, Andre F, Dent R, Zhou X, Karantza V, Mejia J, Cortes J; KEYNOTE-119 investigators. Pembrolizumab versus investigator-choice chemotherapy for metastatic triple-negative breast cancer (KEYNOTE-119): a randomised, open-label, phase 3 trial *Lancet Oncol*. Mar 4:S1470-2045(20)30754-3. doi: 10.1016/S1470-2045(20)30754-3. Online ahead of print, 2021
31. Poveda A, Floquet A, Ledermann JA, Asher R, Penson RT, Oza AM, Korach J, Huzarski T, Pignata S, Friedlander M, Baldoni A, Park-Simon TW, Tamura K, Sonke GS, Lisyanskaya A, Kim JH, Filho EA, Milenkova T, Lowe ES, Rowe P, Vergote I, Pujade-Lauraine E; SOLO2/ENGOT-0v21 investigators. Olaparib tablets as maintenance therapy in patients with platinum-sensitive relapsed ovarian cancer and a BRCA1/2 mutation (SOLO2/ENGOT-0v21): a final analysis of a double-blind, randomised, placebo-controlled, phase 3 trial *Lancet Oncol*. 22: 620-631, 2021



2. 学会発表

令和2年10月3日(土)  
第36回日本癌学会市民公開講座  
よくわかるがんゲノム医療

G. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他

## Ⅱ. 分担研究報告書

厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)  
分担研究報告書

3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」  
に関する教育と正しい情報伝達に関する研究に関する研究

研究分担者 土原 一哉  
国立がん研究センター先端医療開発センター  
トランスレーショナルインフォマティクス分野 分野長

**研究要旨**

公開された書籍、ウェブコンテンツの「ゲノム検査」に関する解説を担当した。がんゲノム医療については患者、市民からの注目が高く、一般向けの適切な情報提供のニーズが高い。第一線の研究者の解説が情報発信することの意義は高く、今後もタイムリーな改訂、アップデートが必要と考えられる。

**A. 研究目的**

患者、患者家族、一般市民を対象に、現状のがんゲノム医療の全体像をまとめアップデートを随時行いながら、ゲノム関連情報の提供を行うことを計画する。各学会に所属する専門家による現状の解説や将来像、現時点では達成できていないことなど負の側面も含めて正確な情報を提供する。情報ツールとしては、3学会のホームページだけではなく、患者会のホームページ、NPOがん関連ネット、メディア企業、医学系出版社、大手のインターネットサイトを用いる。又、各学会の学術集会、市民公開講座、大学のがんプロフェッショナル講座、国立がん研究センター、患者会、他医療従事者向け教育事業などと連携する。3年間の研究期間内に、国民を対象とした「がんゲノムネット」のコンテンツ・体制を整えることを目標とする。

**B. 研究方法**

前年度までに班会議で決定した内容に基づき。書籍、ウェブコンテンツの分担項目（第4章 がんゲノム検査）の執筆、収録、編集を行った。

**C. 研究結果**

がんゲノムネット（URL: <https://www.cancergenomenet.jp>）の公開と、「よくわかるがんゲノム医療Q&A - あなたの疑問に専門医が答える！ -」の刊行にあたり、「第4章 がんゲノム検査」

(Q16 がんゲノム検査にはどのようなものがありますか？ Q17 次世代シーケンサーとはなんですか？ Q18 これまでのがん遺伝子検査とがん遺伝子パネル検査の違いはなんですか？ Q19 がんゲノム検査にはどのようなサンプルが必要ですか？ Q20 血液で行えるがんのゲノム診断とはどのようなものですか?)の執筆、編集、および動画収録を行った。

**D. 考察およびE. 結論**

がんゲノム医療については患者、市民からの注目が高く、一般向けの適切な情報提供のニーズが高い。本研究課題において当初の計画通り、書籍の発行、ウェブコンテンツの公開が達成できた。リキッドバイオプシーなど新たなゲノム検査技術の臨床導入や、現行の治療効果予測に加え予後予測や病態モニタリングなどががんゲノム検査の応用範囲の拡大など今後もタイムリーな改訂、アップデートが必要と考えられる。

**F. 研究発表**

1. 論文発表 特記なし
2. 学会発表 特記なし

**G. 知的財産権の出願・登録状況**

1. 特許取得 特記なし

厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)  
分担研究報告書

3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」  
に関する教育と正しい情報伝達に関する研究に関する研究

研究分担者 高橋 俊二  
がん研究会有明病院 総合腫瘍科部長

研究要旨 がんゲノム医療に関する患者・家族、一般市民向けのウェブ・サイト「がんゲノムネット」および書籍「よくわかるがんゲノム医療」について、基礎的な分野について担当し、がん研がん研究所、有明病院の研究者の協力を得て執筆した。さらに、日本臨床腫瘍学会におけるシンポジウムにおける発表を行った

### A. 研究目的

本研究は、3学会合同WGを基盤とし、患者、患者家族、一般市民を対象に、現状のがんゲノム医療の全体像をまとめアップデートを随時行いながら、ゲノム関連情報の提供を行うことを計画する。各学会に所属する専門家による現状の解説や将来像、現時点では達成できていないことなど負の側面も含めて正確な情報を提供する。情報ツールとしては、3学会のホームページだけではなく、患者会のホームページ、NPOがん関連ネット、メディア企業、医学系出版社、大手のインターネットサイトを用いる。各学会の学術集会、市民公開講座、大学のがんプロフェッショナル講座、国立がん研究センター、患者会、他医療従事者向け教育事業などと連携する。研究期間内に、国民を対象とした「がんゲノムネット」のコンテンツ・体制を整えることを目標とする。

### B. 研究方法

各学会に所属する専門家による現状の解説や将来像、現時点では達成できていないことなど負の側面も含めて正確な情報を提供するために、3学会のホームページだけではなく、患者会のホームページ、NPOがん関連ネット、メディア企業、医学系出版社、大手のインターネットサイトを用いて情報を提供する。

班会議においてまず書籍、ホームページの内容について検討し、分担項目の執筆、編集、収録を行った。

### C. 研究結果

収集した情報をとりまとめ、書籍「よくわかるがんゲノム医療」、「がんゲノムネット」の基礎的な分野の講義について担当した。

Q6-10 (Q6ゲノムの異常によってがんになりますか? Q7 がん細胞にはゲノムの異常がどのくら

いありますか? Q8 がんは遺伝しますか? Q9 がん遺伝子とがん抑制遺伝子の違いはなんですか? Q10 ドライバー遺伝子とはなんですか?) を担当し、執筆者依頼、編集を行った。さらに、日本臨床腫瘍学会におけるシンポジウム「3学会ゲノムネットセッション」における発表を行った。

### D. 考察およびE. 結論

2019年度に遺伝子パネル検査が実地臨床にて開始され、実施医療機関が増加するに従い、医療者側の理解度は向上してきたが、患者側の理解度は様々であり、検査実施/説明の前後に医師/コーディネーターから長時間の説明が必要になることも多い。医療者と患者、患者家族、一般市民とがゲノム医療についての正確な知識を共有するために、インターネットを用いたこの方法が有用であり、今後の継続、更新改訂が重要と考えられる。

### F. 研究発表

#### 1. 論文発表

Chia-Jui Yen, Naomi Kiyota, Nobuhiro Hanai, Shunji Takahashi, Tomoya Yokota, Shigemichi Iwae, Yasushi Shimizu, Ruey-Long Hong, Masa hiro Goto, Jin-Hyoung Kang, Wing Sum Kenneth Li, Robert L Ferris, Maura Gillison, Toshimitsu Endo, Vijayvel Jayaprakash, Makoto Taha ra. Two-year follow-up of a randomized phase III clinical trial of nivolumab vs. the investigator's choice of therapy in the Asian population for recurrent or metastatic squamous cell carcinoma of the head and neck (CheckMate 141) *Head Neck*. 2020 Jun 24. doi: 10.1002/hed.26331. Online ahead of print. Hitoshi Inari, Natsuki Teruya, Miki Kishi, Rie Horii, Futoshi Akiyama, Shunji Takahashi, Yoshinori Ito, Takayuki Ueno, Takuji Iwase and Shinji Ohno. Survival in Cytologically Proven Node-Positive Breast Cancer Patients

with Nodal Pathological Complete Response after Neoadjuvant Chemotherapy. *Cancers* 2020, 12, 2633; doi:10.3390/cancers12092633

Hitoshi Inari, Natsuki Teruya, Miki Kishi, Rie Horii, Futoshi Akiyama, Shunji Takahashi, Yoshinori Ito, Takayuki Ueno, Takuji Iwase & Shinji Ohno. Clinicopathological features of breast cancer patients with internal mammary and/or supraclavicular lymph node recurrence without distant metastasis. *BMC Cancer* volume 20, Article number: 932 (2020) Published: 29 September 2020

Yu Fujiwara, Yasuyoshi Sato, Xiaofei Wang, Katsunori Oikado, Yoshinao Sato, Naoki Fukuda, Taisuke Enokida, Koichi Takeda, Daisuke Ohkushi, Brian Hayama, Yoko Egi, Yoshitaka Tokai, Yumi Yamada, Yuki Nakajima, Motoko Kubota, Satomi Haruki, Takako Shimizu, Yasuko Uchida, Kuniko Utsugi, Yoshinori Ito, Shinji Ohno, Shunji Takahashi, Tomohiro Tsuchida, on behalf of COVID-19 Working Group of The Cancer Institute Hospital of Japanese Foundation for Cancer Research. Screening for COVID-19 in Symptomatic Cancer Patients in a Cancer Hospital. *Cancer Cell*. Published: October 02, 2020 DOI: <https://doi.org/10.1016/j.ccell.2020.09.017>

Yasuyoshi Sato, Ikuo Wada, Kosuke Odair, Akihiro Hosoi, Yukari Kobayashi, Koji Nagaoka, Takahiro Karasaki, Hirokazu Matsushita, Koichi Yagi, Hiroharu Yamashita, Masashi Fujita, Shuichi Watanabe, Takashi Kamatani, Fuyuki Miya, Junichi Mineno, Hidewaki Nakagawa, Tatsuhiro Tsunoda, Shunji Takahashi, Yasuyuki Seto & Kazuhiro Kakimi. Integrative immunogenomic analysis of gastric cancer dictates novel immunological classification and the functional status of tumor-infiltrating cells. *Clinical & Translational Immunology* 2020; e1194. doi: 10.1002/cti2.1194

Effectiveness and safety of nivolumab in patients with head and neck cancer in Japanese real-world clinical practice: a multicenter retrospective clinical study. Nobuhiro Hanai, Yasushi Shimizu, Shin Kariya, Ryuji Yasumatsu, Tomoya Yokota, Takashi Fujii, Kiyooki Tsukahara, Masafumi Yoshida, Kenji Hanyu, Tsutomu Ueda, Hitoshi Hirakawa, Shunji Takahashi, Takeharu Ono, Daisuke Sano, Moriyasu Yamachi, Akihito Watanabe, Koichi Omori, Tomoko Yamazaki, Nobuya Monden, Naomi Kudo, Makoto Arai, Daiju Sakurai, Takahiro Asakage, Issai Doi, Takayuki Yamada & Akihiro Homma. *International Journal of Clinical Oncology* (2020) PMID: 33219460 DOI: 10.1007/s10147-020-01829-

Induction chemotherapy in locally advanced squamous cell carcinoma of the head and neck.

Susumu Okano, Akihiro Homma, Naomi Kiyota, Makoto Tahara, Nobuhiro Hanai, Takahiro

Asakage, Kazuto Matsuura, Takenori Ogawa, Yuki Saito, Daisuke Sano, Takeshi Kodaira, Atsushi Motegi, Koichi Yasuda, Shunji Takahashi, Kaoru Tanaka, Takuma Onoe, Tomoya Yokota, Yoshinori Imamura, Yosuke Ariizumi, Tetsuo Akimoto, Ryuichi Hayashi. *Japanese Journal of Clinical Oncology*, <https://doi.org/10.1093/jjco/hyaa220> Published: 09 December 2020

A first-in-human, phase I study of the NEDD8 activating enzyme E1 inhibitor TAS4464 in patients with advanced solid tumors. Noboru Yamamoto, Toshio Shimizu, Kan Yonemori, Shige-hisa Kitano, Shunsuke Kondo, Satoru Iwasa, Takafumi Koyama, Kazuki Sudo, Jun Sato, Kenji Tamura, Junichi Tomomatsu, Makiko Ono, Naoki Fukuda, Shunji Takahashi. *Investigational New Drugs*. 2021 <https://doi.org/10.1007/s10637-020-01055-5>

Changes in Treatment Behavior during the COVID-19 Pandemic among Patients at a Cancer Hospital. Yasuyoshi Sato, Yu Fujiwara, Naoki Fukuda, Brian Hayama, Yoshinori Ito, Shinji Ohno, Shunji Takahashi and on behalf of the COVID-19 Working Group of The Cancer Institute Hospital of Japanese Foundation for Cancer. *Cancer Cell* 39, February 8, 2021 <https://doi.org/10.1016/j.ccell.2021.01.002>

Pathogenicity assessment of variants for breast cancer susceptibility genes based on BRCA1/2 analysis of tumor sample. Reiko Yoshida, Taichi Hagio, Tomoko Kaneyasu, Osamu Gotoh, Tomoko Sako, Norio Tanaka, Sayuri Amino, Noriko Yaguchi, Eri Nakashima, Dai Kitagawa, Takayuki Ueno, Shinji Ohno, Takeshi Nakajima, Seigo Nakamura, Yoshio Miki, Toru Hirota, Shunji Takahashi, Masaaki Matsuura, Tetsuo Noda Seichi Mori. *Cancer Science*. Published online: 09 January 2021. <https://doi.org/10.1111/cas.14803>

Safety and pharmacokinetics of milademetan, a MDM2 inhibitor, in Japanese patients with solid tumors: A phase I study. Shunji Takahashi, Yutaka Fujiwara, Kenji Nakano, Toshio Shimizu, Junichi Tomomatsu, Takafumi Koyama, Mariko Ogura, Masaya Tachibana, Yasuyuki Kakurai, Tomonari Yamashita, Sakura Sakajiri, Noboru Yamamoto. *Cancer Sci* 2021 Mar 9. doi: 10.1111/cas.14875.

## 2. 学会発表

JSMO 2021 シンポジウム「3学会ゲノムネットワークセッション」「がんとゲノム—日本癌学会」

## G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし

厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)  
分担研究報告書

3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」に関する教育と正しい情報伝達に関する研究に関する研究

研究分担者 古川 洋一  
東京大学医科学研究所先端医療研究センター  
臨床ゲノム腫瘍学分野 教授

**研究要旨**

がんゲノム医療に関する患者・家族、一般市民向けの書籍「よくわかるがんゲノム医療」コンテンツの「家族性腫瘍・遺伝性腫瘍」に関する解説の編集を担当し、同書籍の出版に協力した。またその内容は、情報発信のために開設された「がんゲノムネット」のホームページにおいても公開され、がんゲノム医療に関する正しい情報の普及に役立つものと期待される。引き続き情報の発信と、状況に応じて改訂・アップデートが必要である。

**A. 研究目的**

本研究は日本癌学会・日本臨床腫瘍学会・日本癌治療学会が設立した「3学会合同ゲノム医療推進タスクフォース」内の活動目標の1つである「社会に対する正しいがんゲノム医療の提供」の実現に向け、患者、患者家族、一般市民を対象に、現状のがんゲノム医療の全体像をまとめアップデートを随時行いながら、ゲノム関連情報の提供を行うことを目的とする。

本年は3年間の研究期間の最終年度であり、国民を対象として、がんゲノム医療に関する啓発のための書籍の発刊、情報提供のためのWEBページの開設を目標とする。

**B. 研究方法**

前年度までに本班会議で検討し、決定した内容に基づき、書籍、ウェブコンテンツの分担項目(第7章 家族性腫瘍・遺伝性腫瘍)の執筆内容について確認、編集を行った。

**C. 研究結果**

患者・家族、一般市民向けの書籍「よくわかるがんゲノム医療」の「家族性腫瘍・遺伝性腫瘍」の章(Q36 家族や親せきにがん患者がいない場合、遺伝性腫瘍は否定できますか? Q37 遺伝性腫瘍と診断されると子どもは必ずがんを発症しますか? Q38 がん遺伝子パネル検査で遺伝性腫瘍が診断される場合がありますか? Q39 遺伝カウンセリングとはなんですか? Q40 親せきに

若くしてがんになった人がいて、自分が遺伝性腫瘍や家族性腫瘍でないかどうか心配です。どのようにすればよいですか?)を担当し、Q&Aの執筆内容について確認と編集を行った。内容は、書籍及びがんゲノムネット(URL: <https://www.cancergenomenet.jp>)にて公開された。

**D. 考察およびE. 結論**

がんゲノム医療については患者、市民からの注目が高く、一般向けの適切な情報提供のニーズが高い。また、パネル検査を中心にがんゲノム解析が普及しつつあるが、それに伴って二次的所見の開示など、患者・家族にとって新たな課題について理解と、意思決定が必要となる状況が増えつつある。欧米では遺伝性腫瘍に対するエビデンスが蓄積されるにしたがって、臨床管理のガイドラインが改訂されている。本研究の成果で発刊された「よくわかるがんゲノム医療」や、がんゲノムネットのWEBサイトで情報提供されている内容についても、今後もタイムリーな改訂、アップデートが必要と考えられる。

**F. 研究発表**

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

**G. 知的財産権の出願・登録状況**

1. 特許取得 なし

厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)  
分担研究報告書

3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」  
に関する教育と正しい情報伝達に関する研究に関する研究

研究分担者 川上 尚人  
近畿大学医学部内科学腫瘍内科部門 医学部講師

研究要旨

がんゲノム医療は国民の関心が高いが正しい情報を得る機会は限られている。本研究では、がんゲノム医療の正しい情報提供を行うことを目的とし、がん患者・家族、一般市民向けのウェブサイト「がんゲノムネット」のコンテンツ・体制を整える準備を行ってきた。本年度はコンテンツをウェブサイトならびに冊子として公開した。

A. 研究目的

「日本癌学会」、「日本臨床腫瘍学会」、「日本癌治療学会」が合同で設立した「3学会合同ゲノム医療推進タスクフォース」において「がんゲノムネット・ワーキンググループ (WG)」が組織された。目的は患者や患者家族、さらには一般市民に現状のがんゲノム医療について広く正しく理解してもらうことである。当該分野は日々情報がアップデートされることより、その媒体としては書籍よりウェブサイトが適していると考えられた。3年間の研究期間内に、国民を対象とした「がんゲノムネット」のコンテンツ・体制を整えることを目標とする。

B. 研究方法

コンテンツ「よくわかるがんゲノム医療」の制作を行った。Q26 肺がんにおけるEGFR変異とはなんですか？Q27 肺がんにおけるALK融合遺伝子とはなんですか？Q28 大腸がんにおけるRAS変異、BRAF変異とはなんですか？Q29 MSI検査とはなんですか？Q30 遺伝子変異量 (TMB) やPD-L1発現量検査とはなんですか？の設問項目を設定し、これらの項目についての執筆者を決定した。

C. 研究結果

以上内容はWebサイト：がんゲノムネット (URL: <https://www.cancer genomenet.jp>) および書籍「よくわかるゲノム医療」(出版社:医科学出版社)として公表された。

D. 考察およびE. 結論

がん治療中の患者さんにとってインターネットは簡便であり最も身近な情報収集ツールである。し

かし一般的な検索エンジンで上位にヒットするのは必ずしも医学的に正しいとは言えない情報であることが多い。「がんゲノムネット」および書籍である「よくわかるゲノム医療」を遺伝子パネル検査実施の際の説明補助として実際の日常診療においても使用しているが、理解しやすいという評価を得ている。ゲノム医療についての情報は日々アップデートされており、今後も定期的な内容の見直し、更新が必須である。

現在の問題点としては、検索エンジンで当該ウェブサイトに簡単に辿り着かない点が挙げられる。より市民にとって身近な情報源であるためには、そうした検索されやすいサイトであるための工夫

(アルゴリズムの解析) などが必要である。今後のゲノム医療のさらなる一般化、充実のために患者さんにとってアクセスのしやすい正しい情報源としての「がんゲノムネット」のようなウェブサイトは今後さらに必要であると考えられた。

F. 研究発表

1. 論文発表: Takeda M, Takahama T, Sakai K, Shimizu S, Watanabe S, Kawakami H, Tanaka K, Sato C, Hayashi H, Nonagase Y, Yonesaka K, Takagawa N, Okuno T, Yoshida T, Fumita S, Suzuki S, Haratani K, Saigoh K, Ito A, Mitsudomi T, Handa H, Fukuoka K, Nakagawa K, Nishio K. Clinical Application of the FoundationOne CDx Assay to Therapeutic Decision-Making for Patients with Advanced Solid Tumors. *Oncologist*. 2021 Apr;26(4):e588-e596.

2. 学会発表: 第18回日本臨床腫瘍学会学術集会 SP01特別企画「3学会ゲノムネット」がんゲノム医療の将来-日本臨床腫瘍学会

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得: なし

厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)  
分担研究報告書

3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」  
に関する教育と正しい情報伝達に関する研究に関する研究

研究分担者 佐治 重衡  
公立大学法人 福島県立医科大学 腫瘍内科学講座 主任教授  
附属病院 副病院長、がんゲノム医療診療部 部長

研究要旨

本研究では、がんゲノム医療の正しい情報提供を行うことを目的とし、国民を対象とした「がんゲノムネット」のコンテンツ・体制を整えるための研究を実施してきた。本年度はがん患者・家族、一般市民向けのウェブ・サイト「がんゲノムネット」および書籍「よくわかるがんゲノム医療」について、“各種がんにおけるゲノム医療”の担当項目の編集、出版、ウェブサイト公開をおこなった

A. 研究目的

本研究は、患者、患者家族、一般市民を対象に、現在のがんゲノム医療の全体像をまとめながら、ゲノム関連情報の提供を行うことを計画する。

「日本癌学会」、「日本臨床腫瘍学会」、「日本癌治療学会」に所属する専門家による現状の解説や将来像、現時点では達成できていないことなどの正確な情報を提供する。情報ツールとしては、学会のホームページ、患者会のホームページ、NPOがん関連ネット、メディア企業、医学系出版社、大手インターネットサイトを用いる。国民を対象とした「がんゲノムネット」のコンテンツ・体制を整えることを目標とする。

B. 研究方法

「よくわかるがんゲノム医療」のコンテンツとして“第6章 各種がんにおけるゲノム医療”の課題における執筆項目を複数設定し、執筆者を選定し内容を作成する。内容の確認や編集作業を行い、書籍版とWEB配信版として公開する。実際のがんゲノムパネル検査の説明の補助資料として、公開されたWEB版を用い、その使用感を担当医療従事者間で確認する。

C. 研究結果

コンテンツ「よくわかるがんゲノム医療」の制作を行った。“第6章 各種がんにおけるがんゲノム医療”について5つのQAを設定し、それらの項目についての執筆者を決定した。Q31 乳がんや胃がんにおけるHER2検査とはなんですか？、Q32 乳がんや卵巣がんにおけるBRCA遺伝子変異検査とはなんですか？、Q33 悪性黒色腫（メラノーマ）におけるBRAF変異検査とはなんですか？、Q34 慢性骨髄性白血病におけるBCR/ABL融合遺伝子検査とはなんですか？、Q35 消化管間質腫瘍（GIST）におけるKIT変異検査とはなんですか？ の5つ

について作成した。書籍：「よくわかるゲノム医療」（出版社：医科学出版社）と、Webサイト：がんゲノムネット（URL：<https://www.cancergenomenet.jp>）内のダウンロード冊子として公開された。

当院のがんゲノム医療診療部での、実際の患者さんに対するがんゲノムパネル検査説明において、本コンテンツを電子媒体の補助資料として利用し説明をおこなった。電子版でも文字が比較的大きく、記載が平易でわかりやすいものの、図や漫画のようなイラストが少なく、直感的にわかるものではない点が改善すべき点という意見が多く聞かれた。

D. 考察

「日本癌学会」、「日本臨床腫瘍学会」、「日本癌治療学会」の3学会合同WGを基盤とした事業であったことから、基礎的な点から臨床的な点まで、総論から各論まで、広く・正しい情報提供のできるコンテンツが完成したと考えられる。一方、文章の記載は平易であるものの、図やイラストが少なく、患者さんが直感的に理解できるものではないため、特に電子媒体での情報提供ツールとしては改善する余地があると思われる。

E. 結論

がんゲノム医療に関する患者・家族、一般市民向けのウェブ・サイト「がんゲノムネット」および書籍「よくわかるがんゲノム医療」のコンテンツを作成し、公開・出版した。

F. 研究発表

1. 論文発表

1. Kawate T, Yoshida A, Sugae S, Asaga S, Ka  
ise H, Saji S, Yamauchi C, Miyoshi Y, Yam  
auchi H, Ishikawa T. Recommendations for  
the management of breast cancer patients



- during the COVID-19 pandemic from the Japan Breast Cancer Society. *Breast Cancer*. 28(2):247-253, 2021. doi: 10.1007/s12282-020-01214-9.
2. Toi M, Imoto S, Ishida T, Ito Y, Iwata H, Masuda N, Mukai H, Saji S, Shimizu A, Ikeda T, Haga H, Saeki T, Aogi K, Sugie T, Ueno T, Kinoshita T, Kai Y, Kitada M, Sato Y, Jimbo K, Sato N, Ishiguro H, Takada M, Ohashi Y, Ohno S. Adjuvant S-1 plus endocrine therapy for oestrogen receptor-positive, HER2-negative, primary breast cancer: a multicentre, open-label, randomised, controlled, phase 3 trial. *Lancet Oncol*. 22(1):74-84, 2021. doi: 10.1016/S1473-2045(20)30534-9.
  3. Ohno S, Saji S, Masuda N, Tsuda H, Akiyama F, Kurosumi M, Shimomura A, Sato N, Takao S, Ohsumi S, Tokuda Y, Inaji H, Watanabe T, Ohashi Y. Relationships between pathological factors and long-term outcomes in patients enrolled in two prospective randomized controlled trials comparing the efficacy of oral tegafur-uracil with CMF (N-SAS-BC01 trial and CUBC trial). *Breast Cancer Res Treat*. 186(1):135-147, 2021. doi: 10.1007/s10549-020-06018-1
  4. Sawaki M, Yamada A, Kumamaru H, Miyata H, Nakayama K, Shimizu C, Miyashita M, Honma N, Taira N, Saji S. Clinicopathological characteristics, practical treatments, prognosis, and clinical issues of older breast cancer patients in Japan. *Breast Cancer*. 28(1):1-8, 2021. doi: 10.1007/s12282-020-01188-8.
  5. Mittendorf EA, Zhang H, Barrios CH, Saji S, Jung KH, Hegg R, Koehler A, Sohn J, Iwata H, Telli ML, Ferrario C, Punie K, Penault-Llorca F, Patel S, Duc AN, List-Heramoso M, Maiya V, Molinero L, Chui SY, Harbeck N. Neoadjuvant atezolizumab in combination with sequential nab-paclitaxel and anthracycline-based chemotherapy versus placebo and chemotherapy in patients with early-stage triple-negative breast cancer (IMpassion031): a randomised, double-blind, phase 3 trial. *Lancet*. 396(10257):1090-1100, 2020. doi: 10.1016/S0140-6736(20)31953-X.
  6. Shimoi T, Nagai SE, Yoshinami T, Takahashi M, Arioka H, Ishihara M, Kikawa Y, Koizumi K, Kondo N, Sagara Y, Takada M, Takanoto T, Tsurutani J, Naito Y, Nakamura R, Hattori M, Hara F, Hayashi N, Mizuno T, Miyashita M, Yamashita N, Yamanaka T, Saji S, Iwata H, Toyama T. The Japanese Breast Cancer Society Clinical Practice Guidelines for systemic treatment of breast cancer, 2018 edition. *Breast Cancer*. 27(3):322-331. 2020 doi: 10.1007/s12282-020-01085-0.
  7. Park YH, Senkus-Konefka E, Im SA, Pentheroudakis G, Saji S, Gupta S, Iwata H, Mastura MY, Dent R, Lu YS, Yin Y, Smruti BK, Toyama T, Malwinder S, Lee SC, Tseng LM, Kim JH, Kim TY, Suh KJ, Cardoso F, Yoshino T, Douillard JY. Pan-Asian adapted ESMO Clinical Practice Guidelines for the management of patients with early breast cancer: a KSMO-ESMO initiative endorsed by CSCO, ISMPO, JSMO, MOS, SSO and TOS. *Ann Oncol*. 31(4):451-469, 2020. doi:10.1016/j.annonc.2020.01.008.
  8. Inokuchi M, Kutomi G, Kijima Y, Sakai T, Sawaki M, Shien T, Hanamura N, Yano K, Wada N, Saji S, Iwata H. The Japanese Breast Cancer Society clinical practice guidelines for surgical treatment of breast cancer, 2018 edition. *Breast Cancer*. 27(1):4-8. 2020. doi: 10.1007/s12282-019-01030-w.
  9. Iwata H, Saji S, Ikeda M, Inokuchi M, Uematsu T, Toyama T, Horii R, Yamauchi C. The Japanese Breast Cancer Society Clinical Practice Guidelines, 2018 edition: the tool for shared decision making between doctor and patient. *Breast Cancer*. 27(1):1-3. 2020. doi:10.1007/s12282-019-01021-x.
  10. Uematsu T, Nakashima K, Kikuchi M, Kubota K, Suzuki A, Nakano S, Hirokaga K, Yamaguchi K, Saji S, Iwata H. The Japanese Breast Cancer Society Clinical Practice Guidelines for Breast Cancer Screening and Diagnosis, 2018 Edition. *Breast Cancer*. 27(1):17-24. 2020. doi:10.1007/s12282-019-01025-7.
  11. Yamauchi C, Yoshimura M, Sekiguchi K, Hamamoto Y, Nakajima N, Sanuki N, Ogo E, Oguchi M, Saji S, Iwata H. The Japanese Breast Cancer Society Clinical Practice Guideline for radiation treatment of breast cancer, 2018 edition. *Breast Cancer*. 27(1):9-16. 2020. doi: 10.1007/s12282-019-01019-5
  12. Tamura K, Imamura CK, Takano T, Saji S, Yamanaka T, Yonemori K, Takahashi M, Tsurutani J, Nishimura R, Sato K, Kitani A, Ueno NT, Mushiroda T, Kubo M, Fujiwara Y, Tanigawara Y. CYP2D6 Genotype-Guided Tamoxifen Dosing in Hormone Receptor-Positive Metastatic Breast Cancer (TARGET-1): A Randomized, Open-Label, Phase II Study. *J Clin Oncol*. 2020, 38(6):558-566. doi: 10.1200/JCO.19.01412.
2. 学会発表  
なし
- G. 知的財産権の出願・登録状況**
1. 特許取得 なし

厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)  
分担研究報告書

3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」  
に関する教育と正しい情報伝達に関する研究に関する研究

研究分担者 矢野 聖二  
国立大学法人金沢大学 がん進展制御研究所腫瘍内科

研究要旨

公開された書籍、ウェブコンテンツの編集および「ファーマコゲノミクスとバイオマーカー」に関する解説を共同担当した。がんゲノム医療については患者、市民からの注目が高く、一般向けの適切な情報提供のニーズが高い。第一線の研究者の解説が情報発信することの意義は高く、今後もタイムリーな改訂、アップデートが必要と考えられる。

**A. 研究目的**

患者、患者家族、一般市民を対象に、現状のがんゲノム医療の全体像をまとめアップデートを随時行いながら、ゲノム関連情報の提供を行うことを計画する。各学会に所属する専門家による現状の解説や将来像、現時点では達成できていないことなど負の側面も含めて正確な情報を提供する。情報ツールとしては、3学会のホームページだけではなく、患者会のホームページ、NPOがん関連ネットワーク、メディア企業、医学系出版社、大手のインターネットサイトを用いる。又、各学会の学術集会、市民公開講座、大学のがんプロフェッショナル講座、国立がん研究センター、患者会、他医療従事者向け教育事業などと連携する。3年間の研究期間内に、国民を対象とした「がんゲノムネット」のコンテンツ・体制を整えることを目標とする。

**B. 研究方法**

前年度までに班会議で決定した内容に基づき、書籍、ウェブコンテンツの編集および分担項目（第5章 ファーマコゲノミクスとバイオマーカー）の共同執筆を行った。

**C. 研究結果**

がんゲノムネット (URL: <https://www.cancergenomenet.jp>) の公開と、「よくわかるがんゲノム医療Q&A - あなたの疑問に専門医が答える! -

」の刊行にあたり、「第5章 ファーマコゲノミクスとバイオマーカー」(Q23 抗がん薬の「効く」「効かない」を見分けるがんゲノム検査がありますか? Q24 抗がん薬の副作用の程度を予測するがんゲノム検査がありますか? Q25 がんの種類にかかわらず、抗がん薬の効果を予測するがんゲノム検査がありますか?)の共同執筆と編集を行った。

**D. 考察およびE. 結論**

がんゲノム医療については患者、市民からの注目が高く、一般向けの適切な情報提供のニーズが高い。本研究課題において当初の計画通り、書籍の発行、ウェブコンテンツの公開が達成できた。リキッドバイオプシーなど新たなゲノム検査技術の臨床導入や、現行の治療効果予測に加え予後予測や病態モニタリングなどががんゲノム検査の応用範囲の拡大など今後もタイムリーな改訂、アップデートが必要と考えられる。

**F. 研究発表**

1. 論文発表 特記なし
2. 学会発表 特記なし

**G. 知的財産権の出願・登録状況**

1. 特許取得 特記なし

厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)  
分担研究報告書

3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」  
に関する教育と正しい情報伝達に関する研究に関する研究

研究分担者 植竹 宏之  
国立病院機構 災害医療センター 臨床研究部長

研究要旨

一般の人を対象とした、ウェブサイト「がんゲノムネット」および書籍「よくわかるがんゲノム医療」の制作を企画し、東京医科歯科大学の池田貞勝氏、熊木裕一氏（がんゲノム診療科）に分担執筆を依頼し、了承され、執筆がなされた。

**A. 研究目的**

3学会合同WGを基盤とし、患者、患者家族、一般市民を対象に、現状のがんゲノム医療の全体像をまとめアップデートを随時行いながら、ゲノム関連情報の提供を行うことが目的である。研究期間内に、国民を対象とした「がんゲノムネット」のコンテンツ・体制を整えることを目的とする。

**B. 研究方法**

1. 会議（がんゲノムネットワークワーキンググループ）の開催
2. 書籍出版
3. 3学会の学術集会内でのシンポジウム、教育セミナーの開催

**C. 研究結果**

ウェブサイト「がんゲノムネット」および書籍「よくわかるがんゲノム医療」の制作を企画し、その掲載内容について検討をおこなった。東京医科歯科大学の池田貞勝氏、熊木裕一氏（がんゲノム診療科）に分担執筆がなされ、発刊された。関連演題を取り扱った臨床腫瘍学会で座長を務めた

**D. 考察およびE. 結論**

「遺伝子パネル検査」が保険診療となり、研究ベースから実臨床にゲノム医療の場が移った。しかし検査は高額であり、また治療薬が見いだされて実際に投与されるのは20%程度である（大腸癌）。真にゲノム医療の恩恵に浴する症例を抽出するためにも、医療者と患者、患者家族、一般市民とがゲノム医療についての正確な知識を共有することが重要である。

**E. 結論**

「よくわかるがんゲノム医療」が発刊された。

**F. 研究発表**

1. 論文発表

Chen B, Dragomir MP, Fabris L, Bayraktar R, Knutsen E, Liu X, Tang C, Li Y, Shimura T, Ivkovic TC, Cruz De Los Santos M, Anfossi S, Shimizu M, Shah MY, Ling H, Shen P, Multani AS, Pardini B, Burks JK, Katayama H, Reineke LC, Huo L, Syed M, Song S, Ferracin M, Oki E, Fromm B, Ivan C, Bhuvaneshwar K, Gusev Y, Mimori K, Menter D, Sen S, Matsuyama T, Uetake H, Vasilescu C, Kopetz S, Parker-Thornburg J, Taguchi A, Hanash SM, Girnita L, Slaby O, Goel A, Varani G, Gagea M, Li C, Ajani JA, Calin GA. The Long Noncoding RNA CCAT2 Induces Chromosomal Instability Through BOP1-AURKB Signaling. *Gastroenterology*. 2020; 159:2146-2162.

Shigeyasu K, Toden S, Ozawa T, Matsuyama T, Nagasaka T, Ishikawa T, Sahoo D, Ghosh P, Uetake H, Fujiwara T, Goel A. The PVT1 lncRNA is a novel epigenetic enhancer of MYC, and a promising risk-stratification biomarker in colorectal cancer. *Mol Cancer*. 2020; 19:155.

Matsuyama T, Kandimalla R, Ishikawa T, Takahashi N, Yamada Y, Yasuno M, Kinugasa Y, Hansen TF, Fakih M, Uetake H, Györffy B, Goel.

A novel mesenchymal-associated transcriptomic signature for risk-stratification and therapeutic response prediction in colorectal cancer. *A. Int J Cancer*. 2020; 147:

2. 学会発表  
なし

**G. 知的財産権の出願・登録状況**

1. 特許取得  
なし

厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)  
分担研究報告書

3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」  
に関する教育と正しい情報伝達に関する研究に関する研究

研究分担者 林田 哲  
慶應義塾大学医学部専任講師

研究要旨

本研究は患者向けのがんゲノム医療に関する書籍およびウェブコンテンツの作成を行い、継続的なアップデートを行うことを目的とする

A. 研究目的

一般市民および患者にむけて、がんゲノム医療の概要を利点・欠点等を科学的エビデンスに基づいて平易な形で説明するツールを作成することを目的とする。これらは書籍およびウェブコンテンツとして作成され、継続的なアップデートを行っていくことを目的とした研究である。

B. 研究方法

上記の目的を達成するために、日本臨床腫瘍学会・日本癌学会・日本癌治療学会のホームページからリンクするページ及び書籍の作成を行った。医療従事者ではない一般向けのQ&Aを想起し、これに回答するのが適切であると判断された専門家に、回答の作成を依頼し、これをまとめた。

C. 研究結果

班会議を通じて、ホームページ及び書籍の内容やClinical Questionの策定を行い、これについて班内での合意形成を行った。担当するテーマにおける適切な執筆者の選定作業や執筆する内容の決定・校正を行った。最終的にウェブサイト「がんゲノムネット」および書籍「よくわかるがんゲノム医療」の制作を行い出版した。

D. 考察

がんゲノム医療の発展・進展はスピードが速く、これを行っている間にも医学的・政策的な進捗が行われているため、このスピード感に合わせた改訂・アップデートが今後も必要と考えられた。

E. 結論

がんゲノム医療の現状と詳細を説明する一般市民向けのウェブサイトおよび書籍の作成を意図し、これを達成した。

F. 研究発表

1. 論文発表

Nakamura K, Aimono E, Oba J, Hayashi H, Tanishima S, **Hayashida T**, Chiyoda T, Kosaka T, Hishida T, Kawakubo H, Kitago M, Okabayashi K, Funakoshi T, Okita H, Ikeda S, Takaishi H, Nishihara H., Estimating copy number using next-generation sequencing to determine ERBB2 amplification status, *Med Oncol*. 2021 Mar 12;38(4):36. doi: 10.1007/s12032-021-01482-1.

Nakashoji A, **Hayashida T**, Yamaguchi S, Kawai Y, Kikuchi M, Yokoe T, Nagayama A, Seki T, Takahashi M, Kitagawa Y. Comprehensive analysis of the homeobox family genes in breast cancer demonstrates their similar roles in cancer and development, *Breast Cancer Res Treat*. 2021 Jan 18. doi: 10.1007/s10549-020-06087-2.

Naito Y, Aburatani H, Amano T, Baba E, Furukawa T, **Hayashida T**, Hiyama E, Ikeda S, Kanai M, Kato M, Kinoshita I, Kiyota N, Kohno T, Kohsaka S, Komine K, Matsumura I, Miura Y, Nakamura Y, Natsume A, Nishio K, Oda K, Oda N, Okita N, Oseto K, Sunami K, Takahashi H, Takeda M, Tashiro S, Toyooka S, Ueno H, Yachida S, Yoshino T, Tsuchihara K; Japanese Society of Medical Oncology; Japan Society of Clinical Oncology; Japanese Cancer Association., Clinical practice guidance for next-generation sequencing in cancer diagnosis and treatment (edition 2.1), *Int J Clin Oncol*. 2021 Feb;26(2):233-283. doi: 10.1007/s10147-020-01831-6.

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし

厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)  
分担研究報告書

3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」  
に関する教育と正しい情報伝達に関する研究に関する研究

研究分担者 吉原 弘祐  
新潟大学大学院医歯学総合研究科・産婦人科 講師

**研究要旨**

患者、患者家族、一般市民を対象としたゲノム関連情報の提供を行うことを目的とし、NPOがん関連ネットワーク、患者会などと連携しながら、ウェブコンテンツ「がんゲノムネット」と書籍「よくわかるがんゲノム医療」について制作を実施した。第一章の「ゲノムとは？」に関する解説を担当し、執筆、編集、動画収録を行った。今後も定期的に情報を更新し、がんゲノム医療を正しく理解してもらうように努めていく必要がある。

**A. 研究目的**

「日本癌学会」、「日本臨床腫瘍学会」、「日本癌治療学会」が設立した「3学会合同ゲノム医療推進タスクフォース」内の活動目標の1つである、「社会に対する正しいがんゲノム医療の提供」の実現に向け、「がんゲノムネット・ワーキンググループ (WG)」が組織された。この3学会合同WGを基盤とし、患者、患者家族、一般市民を対象に、現状のがんゲノム医療の全体像をまとめアップデートを随時行いながら、ゲノム関連情報の提供を行うことを目的とする。3年間の研究期間内に、国民を対象とした「がんゲノムネット」のコンテンツ・体制を整えることを目標とする。

**B. 研究方法**

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、メールベースでの連絡・情報共有を行い、書籍、ウェブコンテンツの分担項目である、「第一章 ゲノムとは？」の執筆、編集、および動画収録を行った。

**C. 研究結果**

がんゲノムネット (URL: <https://www.cancergenomenet.jp>) の公開と、「よくわかるがんゲノム医療 Q&A - あなたの疑問に専門医が答える！ -」の刊行にあたり、「第一章 ゲノムとは？」(Q1 ゲノム

とはなんですか？ Q2 ゲノムの異常には、どのようなものがありますか？ Q3 ゲノムの異常は、どのようにして起こるのですか？ Q4 ゲノムの異常は、子供に遺伝するのですか？ Q5 遺伝子多型とはなんですか？)の執筆、編集、および動画収録を行った。

**D. 考察**

研究計画書の年度予定通りに順調に進んでいる。がんゲノム医療情報は日々更新されていることから、適宜計画の見直しを行い、社会のニーズに合うものを発信できるようにしていく必要がある。

**E. 結論**

3学会合同WGでがんゲノム医療情報発信に向けた基盤を築くことが可能であった。

**F. 研究発表**

1. 論文発表  
なし

**G. 知的財産権の出願・登録状況**

1. 特許取得  
なし

厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)  
分担研究報告書

3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」に関する教育と正しい情報伝達に関する研究に関する研究

研究分担者 清水 千佳子  
国立国際医療研究センター病院 がん総合診療センター 副センター長

研究要旨

がんゲノム医療に関する患者・家族、一般市民向けのウェブ・サイト「がんゲノムネット」および書籍「よくわかるがんゲノム医療」について、ゲノム医療と倫理に関する項目を担当し、国立国際医療研究センター病院 臨床ゲノム科およびゲノム医療の倫理的問題に精通する倫理専門家の協力を得て執筆した。

**A. 研究目的**

「日本癌学会」、「日本臨床腫瘍学会」、「日本癌治療学会」が設立した「3学会合同ゲノム医療推進タスクフォース」内の活動目標の1つである、「社会に対する正しいがんゲノム医療の提供」の実現に向け、「がんゲノムネット・ワーキンググループ(WG)」が組織された。この3学会合同WGを基盤とし、患者、患者家族、一般市民を対象に、現状のがんゲノム医療の全体像をまとめてアップデートを随時行いながら、ゲノム関連情報の提供を行うことを目的とする。3年間の研究期間内に、国民を対象とした「がんゲノムネット」のコンテンツ・体制を整えることを目標とする。

**B. 研究方法**

がんゲノム医療に関する項目を設定し、国際医療研究センター臨床ゲノム科 加藤規弘氏、荒川玲子氏、国立国際医療研究センター研究所 メディカルゲノムセンター 高島響子氏の執筆協力を得て編集した。担当項目は下記の通り：

- ① がん遺伝子パネル検査を受けるにはいくらかかりますか？保険は使えますか？
- ② がんの遺伝に関する情報がほかに漏れることがありますか？
- ③ がんの遺伝に関する情報は自分以外の家族に伝える必要がありますか？

**C. 研究結果**

執筆内容は、専門家による編集を経て、がんゲノムネット (URL: <https://www.cancergenomenet.jp>) と、冊子「よくわかるがんゲノム医療Q&A - あなたの疑問に専門医が答える！」に情報を公開した。

**D. 考察**

がんゲノム医療においては、高額な費用負担、生殖細胞系列の遺伝情報の取り扱い、二次的所見・偶発的所見の取り扱いなど、不確実性や倫理的葛藤を伴う意思決定を患者に求めるため、患者・家族や一般市民の視点での情報提供を行っていく必要がある。

**E. 結論**

がんゲノム医療に関する患者・家族、一般市民向けのウェブ・サイト「がんゲノムネット」および書籍「よくわかるがんゲノム医療」のコンテンツを作成した。

**F. 研究発表**

1. 論文発表  
なし
2. 学会発表  
なし

**G. 知的財産権の出願・登録状況**

なし

厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)  
分担研究報告書

がん患者をはじめとする国民が求める情報に関する研究

研究分担者

加藤 雅志 国立がん研究センター がん対策情報センター がん医療支援部長

研究要旨 「がんゲノム医療」には、患者を中心とした国民から大きく期待されており、関連した相談ががん診療連携拠点病院の「がん相談支援センター」に寄せられている。本研究では、がん相談支援センターのがん専門相談員にインタビューを行い、がん患者や一般の方々が求めるがんゲノム医療に関連した情報に対応する情報発信のあり方について整理を行う。

## A. 研究目的

「がんゲノム医療」には、がん患者を含め国民から大きな期待が寄せられている。がん遺伝子パネル検査が診療報酬で評価されるようになったことなどもあり、医療の状況が変化してきたことに加えて、関連する情報がメディアでの報道やインターネットでの配信がより一層なされるようになったことで、がん診療連携拠点病院のがん相談支援センターに寄せられる相談の内容も変化してきている。本研究では、日頃からがん患者をはじめとした一般の方々からのがん相談に対応をしているがん相談支援センターのがん専門相談員にインタビューを行い、がん患者や一般の方々が求めるがんゲノム医療に関連した情報に対応する情報発信のあり方について整理を行う。

## B. 研究方法

国立がん研究センター中央病院相談支援センターに勤務するがん専門相談員を対象に、本研究班で作成した「がんゲノムネット」(URL: <https://www.cancer genomenet.jp>) と、冊子

「よくわかるがんゲノム医療Q&A - あなたの疑問に専門医が答える！」について、がん患者や一般の方々が求める情報に対応できているかについてインタビューを行った。

### (倫理的配慮)

本研究は、医療者を対象とする調査であり、国立がん研究センターの研究倫理審査の対象外ではあるが、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に従い調査を実施した。

## C. 研究結果

ホームページの内容や冊子の内容は、がん相談支援センターに寄せられる相談内容におおむね合致していた。

また、がん相談支援センターにおけるがん相談でのホームページや冊子を活用する有用性については、Q (質問) に対するわかりやすい解説がインターネットで公開されているため、相談を受けながらホームページで該当箇所を探し回答ができて有用であること。動画を用いて、がん専門相談員が自身でも学習することができ、がん専門相談員の自己学習にも有用であるという意見があった。

## D. 考察及びE. 結論

本研究班が作成したホームページや冊子の内容は、がん患者や一般の方々が求めるがんゲノム医療に関連した情報に適しているものだと考えられた。また、がん診療連携拠点病院等のがん相談支援センターのがん専門相談員にとっても有用なツールであることが推測された。

今後も、がんゲノム医療の進展に伴って、がん患者や一般の方々が求める情報や提供していくべき情報は変化していくことが予想される。発信している情報を更新し、常に最新の情報を提供していくことができる体制を継続していくことが重要である。

## F. 研究発表

1. 論文発表  
なし
2. 学会発表

なし

**G. 知的財産権の出願・登録状況**

(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他



### Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

## 研究成果の刊行に関する一覧表レイアウト

雑誌 (外国語)

| 発表者氏名   | 論文タイトル名   | 発表誌名                     | 巻号  | ページ  | 出版年  |
|---|---|--------------------------|-----|--|------|
| Tamura K, Imamura CK, Takano T, et al.                | CYP2D6 Genotype-Guided Tamoxifen Dosing in Hormone Receptor-Positive Metastatic Breast Cancer (TARGET-1): A Randomized, Open-Label, Phase           | J Clin Oncol             | 38  | 558-566  | 2020 |
| Modi S, Saura C, Yamashita T, Tamamura K et al.       | DESTINY-Breast01 Investigators: Trastuzumab Deruxtecan in Previously Treated HER2-Positive Breast   | N Engl J Med.            | 382 | 610-621  | 2020 |
| Ebata T, Yonemori K, Nishikawa T, Tamura K et al.     | Treatment Outcome of Second-Line Chemotherapy for Gynecologic Carcinosarcoma.   | Oncology                 | 98  | 699-705  | 2020 |
| Noda-Narita S, Shimomura A, Tanabe Y, Tamura K et al. | Peripheral Neuropathy From Paclitaxel: Risk Prediction by Serum microRNAs   | BMJ Support Palliat Care | -   | doi: 10.1136/bmjspcare-2019-001900               | 2020 |
| Uehara T, Yoshida H, Fukuhara M, Tamura K et al.      | Efficacy of ascitic fluid cell block for diagnosing primary ovarian, peritoneal, and tubal cancer in patients                                       | Gynecol Oncol.           | 157 | 398-404  | 2020 |
| Modi S, Park H, Murthy RK, Tamura K et al.            | Antitumor Activity and Safety of Trastuzumab Deruxtecan in Patients With HER2-Low-Expressing Advanced Breast Cancer: Results From a Phase Ib Study. | J Clin Oncol             | 38  | 1887-1896  | 2020 |
| Iwata H, Inoue K, Kaneko K, Tamura K et al.           | Subgroup analysis of Japanese patients in a Phase 3 study of atezolizumab in advanced triple-negative breast cancer (IMpassion130)                  | Jpn J Clin Oncol.        | 50  | 223. doi: 10.1093/jjco/hyz208, 2020              | 2020 |
| Yoshida A, Arai Y, Hama N, Tamura K et al.            | Expanding the clinicopathologic and molecular spectrum of BCOR-associated sarcomas in adults.   | Histopathology           | 76  | Epub ahead of print                              | 2020 |
| Kato MK, Yunokawa M, Bun S, Tamura K, et al.          | Treatment strategies for recurrent ovarian cancer in older adult patients in Japan: a study based on real-world data                                | J Cancer Res Clin Oncol  | 146 | 1335-1341  | 2020 |
| Seo T, Noguchi E, Yoshida M, Tamamura K et al.        | Response to Dabrafenib and Trametinib of a Patient with Metaplastic Breast Carcinoma Harboring a BRAF V600E Mutation                                | Case Rep Oncol Med       | 6   | 2518383. doi: 10.1155/2020/2518383. eCollection, | 2020 |

|   |   |                         |     |   |      |
|---|---|-------------------------|-----|---|------|
| Matsumoto K, Takahashi M, Sato K, <u>Tamura K.</u> et al.       | A double-blind, randomized, multicenter phase 3 study of palonosetron vs granisetron combined with dexamethasone and fosaprepitant to prevent chemotherapy-induced nausea and vomiting in patients with breast cancer receiving anthracycline and cyclophosphamide. | Cancer Med              | 9   | 3319-3327                                   | 2020 |
| Tsurutani J, Iwata H, Krop I, <u>Tamura K.</u> et al.           | Targeting HER2 with Trastuzumab Deruxtecan: A Dose-Expansion, Phase I Study in Multiple Advanced Solid Tumors   | Cancer Discov.          | 10  | 688-701                                     | 2020 |
| Watanabe S, Shimomura A, Kubo T, <u>Tamura K.</u> et al.        | BRAF V600E mutation is a potential therapeutic target for a small subset of synovial sarcoma.   | Mod Pathol.             | 33  | 1660-1668                                   | 2020 |
| Sugano T, Yoshida M, Masuda M, <u>Tamura K.</u> et al.          | Prognostic impact of ACTN4 gene copy number alteration in hormone receptor-positive, HER2-negative, node-negative invasive breast carcinoma.  | Br J Cancer.            | 122 | 1811-1817                                   | 2020 |
| Tanabe Y, Shiraishi S, Hashimoto K, <u>Tamura K.</u> et al.     | Taxane-induced sensory peripheral neuropathy is associated with an SCN9A single nucleotide polymorphism in Japanese patients. BMC Cancer.   | BMC Cancer.             | 20  | 325. doi: 10.1186/s12885-020-06834-0., 2020 | 2020 |
| Smyth LM, <u>Tamura K.</u> , Oliveira M, et al                  | Capivasertib, an AKT Kinase Inhibitor, as Monotherapy or in Combination with Fulvestrant in Patients with <i>AKT1</i> <sup>E17K</sup> -Mutant, ER-Positive Metastatic Breast Cancer.  | Clin Cancer Res         | 26  | 3947-3957                                   | 2020 |
| Kawachi A, Yamashita S, Okochi-Takada E, <u>Tamura K.</u> et al | BRCA1 promoter methylation in breast cancer patients is associated with response to olaparib/eribulin combination therapy   | Breast Cancer Res Treat | 181 | 323-329                                     | 2020 |
| Mehnert JM, Bergsland E, O'Neil BH, <u>Tamura K.</u> et al      | Pembrolizumab for the treatment of programmed death-ligand 1-positive advanced carcinoid or pancreatic neuroendocrine tumors: Results from the KEYNOTE-028 study. Cancer  | Cancer                  | 126 | 3021-3030                                   | 2020 |
| Sanchez Calle A, Yamamoto T, Kawamura Y, <u>Tamura K.</u> et al | Long non-coding NR2F1-AS1 is associated with tumor recurrence in estrogen receptor-positive breast cancers  | Mol Oncol.              | 14  | 2271-2287                                   | 2020 |

|  |  |                       |    |  |      |
|--|--|-----------------------|----|--|------|
| Mizuno T, Kojima Y, Yonemori K, Tamura K. et al    | HER3 protein expression as a risk factor for post-operative recurrence in patients with early-stage adenocarcinoma and adenocarcinoma of the cervix                                  | Oncol Lett.           | 20 | 38. doi: 10.3892/ol.2020.11899. Epub   | 2020 |
| Hayashi N, Kumamaru H, Isozumi U, Tamura K. et al  | Annual report of the Japanese Breast Cancer Registry for 2017 Breast Cancer.   | Breast cancer         | 27 | 803-809  | 2020 |
| Minami H, Ando Y, Tamura K. et al                  | Phase I Study of LFA102 in Patients With Advanced Breast Cancer or Castration-resistant Prostate Cancer  | Anticancer Res        | 40 | 5229-5235  | 2020 |
| Watanuki R, Shimomura A, Yazaki S, Tamura K. et al | Survival outcomes in patients with human epidermal growth factor receptor 2 positive metastatic breast cancer administered a therapy following trastuz                               | Medicine (Baltimore). | 18 | 99(38):e22331. doi: 10.1097/MD.000000000022331                                   | 2020 |
| Ryu S, Ohuchi M, Yagishita S, Tamura K. et al      | Visualization of the distribution of nanoparticle-formulated AZD2811 in mouse tumor model using matrix-assisted laser desorption ionization mass spect                               | Sci Rep.              | 23 | 10(1):15535. doi: 10.1038/s41598-020-72665-5                                     | 2020 |
| Mizuno T, Kojima Y, Yonemori K, Tamura K. et al    | Neoadjuvant chemotherapy promotes the expression of HER3 in patients with ovarian cancer   | Oncol Lett            | 20 | 336. doi: 10.3892/ol.2020.12200. Epub  | 2020 |
| Kondo S, Shimizu T, Koyama T, Tamura K. et al      | First-in-human study of the cancer peptide vaccine TAS0313 in patients with advanced solid tumors  | Cancer Sci            | 7  | doi: 10.1111/cas.14765. Online ahead of print                                    | 2020 |
| Hata T, Nakamura K, Yonemori K, Tamura K. et al    | Regulatory and Operational Challenges in Conducting Asian International Academic Trial for Expanding the Indications of Cancer Drugs   | Clin Transl Sci       | -  | doi: 10.1111/cts.12965. Online ahead of print,                                   | 2020 |
| Yamamoto N, Shimizu T, Yonemori K, Tamura K. et al | A first-in-human, phase 1 study of the NEDD8 activating enzyme E1 inhibitor TAS4464 in patients with advanced solid tumors   | Invest New Drugs      | 9  | doi: 10.1007/s10637-020-1055-5. Online ahead of print                            | 2020 |
| Yonemori K, Shimizu T, Kondo S, Tamura K. et al    | The safety, tolerability and pharmacokinetics of niraparib in Japanese patients with solid tumours: results of a phase I dose-escalation study                                       | Jpn J Clin Oncol      | 24 | hyab013. doi: 10.1093/jco/hyab013. Online ahead of print                         | 2021 |
| Winer EP, Lipatov O, Im SA, Tamura K. et al        | KEYNOTE-119 investigators. Pembrolizumab versus investigator-choice chemotherapy for metastatic triple-negative breast cancer (KEYNOTE-119): a randomised, open-label, phase 3 trial | Lancet Oncol          | 4  | S1470-2045(20)30754-3. doi: 10.1016/S1470-2045(20)30754-3. Online ahead of print | 2021 |

|   |   |              |    |         |      |
|---|---|--------------|----|---------|------|
| Poveda A, Floquet A, Ledermann JA, <u>Tamura K.</u> et al | SOLO2/ENGOT-Ov21 investigator s. Olaparib tablets as maintenance therapy in patients with platinum-sensitive relapsed ovarian cancer and a BRCA1/2 mutation (SOLO2/ENGOT-Ov21): a final analysis of a double-blind, randomised, placebo-controlled, phase 3 trial | Lancet Oncol | 22 | 620-631 | 2021 |
|---|---|--------------|----|---------|------|

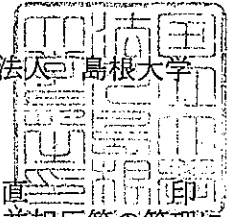
令和 3 年 3 月 26 日

厚生労働大臣 殿

機関名 国立大学法人 高根大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 服部 泰直



次の職員の令和2年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 1. 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
- 2. 研究課題名 3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」に関する教育と正しい情報伝達に関する研究
- 3. 研究者名 (所属部局・職名) 医学部・教授  
(氏名・フリガナ) 田村 研治 ・タムラ ケンジ

4. 倫理審査の状況

|                                     | 該当性の有無                   |                                     | 左記で該当がある場合のみ記入 (※1)      |        |                          |
|-------------------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------|--------------------------|
|                                     | 有                        | 無                                   | 審査済み                     | 審査した機関 | 未審査 (※2)                 |
| ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針               | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 遺伝子治療等臨床研究に関する指針                    | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)           | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針  | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| その他、該当する倫理指針があれば記入すること<br>(指針の名称: ) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

|             |   |
|-------------|---|
| 研究倫理教育の受講状況 | 受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/> |
|-------------|---|

6. 利益相反の管理

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究機関におけるCOI委員会設置の有無     | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: ) |
| 当研究に係るCOIについての報告・審査の有無   | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究に係るCOIについての指導・管理の有無   | 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )  |

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和3年4月1日

厚生労働大臣 殿

機関名 国立研究開発法人国立がん研究センター  
所属研究機関長 職名 理事長  
氏名 中釜 斉

次の職員の令和2年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
- 研究課題名 3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」に関する教育と正しい情報伝達に関する研究
- 研究者名 (所属部局・職名) 先端医療開発センター トランスレーショナルインフォマティクス分野・分野長  
(氏名・フリガナ) 土原 一哉・ツチハラ カツヤ

4. 倫理審査の状況

|                                     | 該当性の有無                   |                                     | 左記で該当がある場合のみ記入 (※1)      |        |                          |
|-------------------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------|--------------------------|
|                                     | 有                        | 無                                   | 審査済み                     | 審査した機関 | 未審査 (※2)                 |
| ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針               | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 遺伝子治療等臨床研究に関する指針                    | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)           | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針  | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| その他、該当する倫理指針があれば記入すること<br>(指針の名称: ) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

|             |   |
|-------------|---|
| 研究倫理教育の受講状況 | 受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/> |
|-------------|---|

6. 利益相反の管理

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究機関におけるCOI委員会設置の有無     | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: ) |
| 当研究に係るCOIについての報告・審査の有無   | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究に係るCOIについての指導・管理の有無   | 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )  |

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 3 年 2 月 12日

厚生労働大臣 殿

機関名 公益財団法人がん研究会

所属研究機関長 職名 理事長

氏名 馬田 一

次の職員の令和2年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 1. 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
- 2. 研究課題名 3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」に関する教育と正しい情報伝達に関する研究
- 3. 研究者名 (所属部局・職名) がん研有明病院総合腫瘍科 部長  
(氏名・フリガナ) 高橋俊二 タカハシシュンジ

4. 倫理審査の状況

|                                     | 該当性の有無                   |                                     | 左記で該当がある場合のみ記入 (※1)      |        |                          |
|-------------------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------|--------------------------|
|                                     | 有                        | 無                                   | 審査済み                     | 審査した機関 | 未審査 (※2)                 |
| ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針               | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 遺伝子治療等臨床研究に関する指針                    | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)           | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針  | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| その他、該当する倫理指針があれば記入すること<br>(指針の名称: ) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

|             |   |
|-------------|---|
| 研究倫理教育の受講状況 | 受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/> |
|-------------|---|

6. 利益相反の管理

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究機関におけるCOI委員会設置の有無     | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: ) |
| 当研究に係るCOIについての報告・審査の有無   | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究に係るCOIについての指導・管理の有無   | 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )  |

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。



令和3年4月8日

厚生労働大臣

殿

機関名 国立大学法人東京大学

所属研究機関長 職名 総長

氏名 藤井 輝夫

次の職員の令和2年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 1. 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
- 2. 研究課題名 3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」に関する教育と正しい情報伝達に関する研究
- 3. 研究者名 (所属部局・職名) 医科学研究所・教授  
(氏名・フリガナ) 古川 洋一 ・ フルカワ ヨウイチ

4. 倫理審査の状況

|                                     | 該当性の有無                   |                                     | 左記で該当がある場合のみ記入(※1)       |        |                          |
|-------------------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------|--------------------------|
|                                     | 有                        | 無                                   | 審査済み                     | 審査した機関 | 未審査(※2)                  |
| ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針               | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 遺伝子治療等臨床研究に関する指針                    | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針(※3)            | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針  | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| その他、該当する倫理指針があれば記入すること<br>(指針の名称: ) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他(特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

|             |   |
|-------------|---|
| 研究倫理教育の受講状況 | 受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/> |
|-------------|---|

6. 利益相反の管理

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究機関におけるCOI委員会設置の有無     | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: ) |
| 当研究に係るCOIについての報告・審査の有無   | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究に係るCOIについての指導・管理の有無   | 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )  |

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

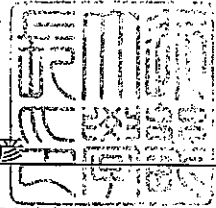
令和 3 年 4 月 14 日

厚生労働大臣 殿

機関名 近畿大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 細井 美彦 印



次の職員の令和 2 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 1. 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
- 2. 研究課題名 3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」に関する教育と正しい情報伝達に関する研究
- 3. 研究者名 (所属部局・職名) 医学部・講師  
(氏名・フリガナ) 川上 尚人・カワカミ ヒサト

4. 倫理審査の状況

|                                     | 該当性の有無                   |                                     | 左記で該当がある場合のみ記入 (※1)      |        |                          |
|-------------------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------|--------------------------|
|                                     | 有                        | 無                                   | 審査済み                     | 審査した機関 | 未審査 (※2)                 |
| ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針               | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 遺伝子治療等臨床研究に関する指針                    | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)           | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針  | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| その他、該当する倫理指針があれば記入すること<br>(指針の名称: ) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

|             |   |
|-------------|---|
| 研究倫理教育の受講状況 | 受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/> |
|-------------|---|

6. 利益相反の管理

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究機関におけるCOI委員会設置の有無     | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: ) |
| 当研究に係るCOIについての報告・審査の有無   | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究に係るCOIについての指導・管理の有無   | 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )  |

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和3年4月8日

厚生労働大臣  
(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿  
(国立保健医療科学院長)

機関名 公立大学法人福島県立医科大学

所属研究機関長 職名 理事長

氏名 竹之下 誠一

次の職員の令和2年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
2. 研究課題名 3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」に関する教育と正しい情報伝達に関する研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 医学部 腫瘍内科・主任教授  
(氏名・フリガナ) 佐治 重衡・サジ シゲヒラ

4. 倫理審査の状況

|                                     | 該当性の有無                   |                                     | 左記で該当がある場合のみ記入(※1)       |        |                          |
|-------------------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------|--------------------------|
|                                     | 有                        | 無                                   | 審査済み                     | 審査した機関 | 未審査(※2)                  |
| ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針               | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 遺伝子治療等臨床研究に関する指針                    | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針(※3)            | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針  | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| その他、該当する倫理指針があれば記入すること<br>(指針の名称: ) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他(特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

|             |   |
|-------------|---|
| 研究倫理教育の受講状況 | 受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/> |
|-------------|---|

6. 利益相反の管理

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究機関におけるCOI委員会設置の有無     | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: ) |
| 当研究に係るCOIについての報告・審査の有無   | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究に係るCOIについての指導・管理の有無   | 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )  |

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和3年 4月 1日

厚生労働大臣 殿

機関名 国立大学法人金沢大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 山崎 光悦

次の職員の令和2年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
2. 研究課題名 3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」に関する教育と正しい情報伝達に関する研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) がん進展制御研究所腫瘍内科・教授  
(氏名・フリガナ) 矢野 聖二・ヤノセイジ

4. 倫理審査の状況

|                                     | 該当性の有無                   |                                     | 左記で該当がある場合のみ記入 (※1)      |        |                          |
|-------------------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------|--------------------------|
|                                     | 有                        | 無                                   | 審査済み                     | 審査した機関 | 未審査 (※2)                 |
| ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針               | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 遺伝子治療等臨床研究に関する指針                    | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)           | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針  | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| その他、該当する倫理指針があれば記入すること<br>(指針の名称: ) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

|             |   |
|-------------|---|
| 研究倫理教育の受講状況 | 受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/> |
|-------------|---|

6. 利益相反の管理

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究機関におけるCOI委員会設置の有無     | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: ) |
| 当研究に係るCOIについての報告・審査の有無   | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: ) |
| 当研究に係るCOIについての指導・管理の有無   | 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )  |

(留意事項) ・該当する口にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 3年 5月 6日

厚生労働大臣 殿

機関名 独立行政法人国立病院機構  
災害医療センター  
所属研究機関長 職名 院長

氏名 土井 庄三郎

次の職員の令和2年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
2. 研究課題名 3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」に関する教育と正しい情報伝達に関する研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 臨床研究部長  
(氏名・フリガナ) 植竹 宏之・ウエタケ ヒロユキ

4. 倫理審査の状況

|                                     | 該当性の有無                   |                                     | 左記で該当がある場合のみ記入 (※1)      |        |                          |
|-------------------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------|--------------------------|
|                                     | 有                        | 無                                   | 審査済み                     | 審査した機関 | 未審査 (※2)                 |
| ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針               | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 遺伝子治療等臨床研究に関する指針                    | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)           | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針  | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| その他、該当する倫理指針があれば記入すること<br>(指針の名称: ) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

|             |   |
|-------------|---|
| 研究倫理教育の受講状況 | 受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/> |
|-------------|---|

6. 利益相反の管理

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究機関におけるCOI委員会設置の有無     | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: ) |
| 当研究に係るCOIについての報告・審査の有無   | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究に係るCOIについての指導・管理の有無   | 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )  |

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣 殿

機関名 慶應義塾大学  
 所属研究機関長 職名 学長  
 氏名 長谷山 彰

次の職員の令和2年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
- 研究課題名 3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」に関する教育と正しい情報伝達に関する研究
- 研究者名 (所属部局・職名) 医学部・専任講師  
 (氏名・フリガナ) 林田 哲・ハシダ テツ
- 倫理審査の状況

|                                     | 該当性の有無                   |                                     | 左記で該当がある場合のみ記入 (※1)      |        |                          |
|-------------------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------|--------------------------|
|                                     | 有                        | 無                                   | 審査済み                     | 審査した機関 | 未審査 (※2)                 |
| ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針               | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 遺伝子治療等臨床研究に関する指針                    | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)           | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針  | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| その他、該当する倫理指針があれば記入すること<br>(指針の名称: ) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

|             |   |
|-------------|---|
| 研究倫理教育の受講状況 | 受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/> |
|-------------|---|

6. 利益相反の管理

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究機関におけるCOI委員会設置の有無     | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: ) |
| 当研究に係るCOIについての報告・審査の有無   | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究に係るCOIについての指導・管理の有無   | 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )  |

(留意事項) ・該当する口にチェックを入れること。  
 ・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 3年 4月 1日

厚生労働大臣 殿

機関名 国立大学法人 新潟大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 牛木 辰男

次の職員の令和2年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
- 研究課題名 3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」に関する教育と正しい情報伝達に関する研究
- 研究者名 (所属部局・職名) 大学院医歯学総合研究科 講師  
(氏名・フリガナ) 吉原 弘祐 (ヨシハラ コウスケ)
- 倫理審査の状況

|                                     | 該当性の有無                   |                                     | 左記で該当がある場合のみ記入 (※1)      |        |                          |
|-------------------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------|--------------------------|
|                                     | 有                        | 無                                   | 審査済み                     | 審査した機関 | 未審査 (※2)                 |
| ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針               | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 遺伝子治療等臨床研究に関する指針                    | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)           | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針  | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| その他、該当する倫理指針があれば記入すること<br>(指針の名称: ) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

#### 5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

|             |   |
|-------------|---|
| 研究倫理教育の受講状況 | 受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/> |
|-------------|---|

#### 6. 利益相反の管理

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究機関におけるCOI委員会設置の有無     | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: ) |
| 当研究に係るCOIについての報告・審査の有無   | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究に係るCOIについての指導・管理の有無   | 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )  |

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 3 年 3 月 22 日

厚生労働大臣 殿

機関名 国立研究開発法人  
国立国際医療研究センター  
所属研究機関長 職 名 理事長  
氏 名 國土 典宏

次の職員の令和2年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
2. 研究課題名 3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」に関する教育と正しい情報伝達に関する研究 (H30-がん対策-一般-008)
3. 研究者名 (所属部局・職名) 乳腺・腫瘍内科 医長  
(氏名・フリガナ) 清水 千佳子・シミズ チカコ

4. 倫理審査の状況

|                                     | 該当性の有無                   |                                     | 左記で該当がある場合のみ記入 (※1)      |        |                          |
|-------------------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------|--------------------------|
|                                     | 有                        | 無                                   | 審査済み                     | 審査した機関 | 未審査 (※2)                 |
| ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針               | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 遺伝子治療等臨床研究に関する指針                    | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)           | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針  | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| その他、該当する倫理指針があれば記入すること<br>(指針の名称: ) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

|             |   |
|-------------|---|
| 研究倫理教育の受講状況 | 受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/> |
|-------------|---|

6. 利益相反の管理

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究機関におけるCOI委員会設置の有無     | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: ) |
| 当研究に係るCOIについての報告・審査の有無   | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究に係るCOIについての指導・管理の有無   | 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )  |

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。



令和3年4月1日

厚生労働大臣 殿

機関名 国立研究開発法人国立がん研究センター

所属研究機関長 職名 理事長

氏名 中釜 斉

次の職員の令和2年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 がん対策推進総合研究事業
2. 研究課題名 3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」に関する教育と正しい情報伝達に関する研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) がん対策情報センター がん医療支援部・部長  
(氏名・フリガナ) 加藤 雅志 ・カトウ マサシ

4. 倫理審査の状況

|                                     | 該当性の有無                   |                                     | 左記で該当がある場合のみ記入 (※1)      |        |                          |
|-------------------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------|--------------------------|
|                                     | 有                        | 無                                   | 審査済み                     | 審査した機関 | 未審査 (※2)                 |
| ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針               | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 遺伝子治療等臨床研究に関する指針                    | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)           | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| 厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針  | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |
| その他、該当する倫理指針があれば記入すること<br>(指針の名称: ) | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |        | <input type="checkbox"/> |

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

|             |   |
|-------------|---|
| 研究倫理教育の受講状況 | 受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/> |
|-------------|---|

6. 利益相反の管理

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究機関におけるCOI委員会設置の有無     | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: ) |
| 当研究に係るCOIについての報告・審査の有無   | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )  |
| 当研究に係るCOIについての指導・管理の有無   | 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )  |

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。